古民家だより

No. 53
令和５年（2023 年）３月２９日（水）
越谷市教育委員会　生涯学習課

「春の苑　紅匂う桃の花　下照る径に出で立つ乙女」（万葉集）　　屋外では少し様子を見ながらマスクを外してみることが出来るようになってきました。今の時季はいろいろな春の匂いがします。植物ばかりではなく、雨にさえも季節の香りがするようです。年度末、区切りの時期になりました。

まだ電気や鉄道がなかった時代　昔について考えた

今年度は久し振りに２つの中村家住宅への小学生社会科見学や町探検が増えました。延べ 12 校でした。（その内、市外から３校）施設の説明や民具体験を同じように行っても、児童たちの感じ取り方や表現は実に多様で、我々課員も大いに勉強になりました。これまでの「古民家だより」では今年１月までのその様子をご紹介してきましたが、２～３月に３校の来館がありましたので、今号ではその様子をご報告します。草加市立長栄小学校、越谷市立大間野小学校、同　西方小学校のそれぞれ３年生です。

そこに“ない”ものを想像したら・・・

このような質問が出る度に、「なぜ、そんな疑問を持つことができるのだろう」と逆に尋ねたくなります。**“電気や鉄道がなかった時代”**についての質問です。

Ａ：火のない時代はあったのですか？（西方小）

「昔の明かり」体験では電気が通る前、およそ 100 年位前までの照明は火を用いてきたことを学びました。これはその後に出た質問です。人類が火を使うようになってから数十万年と言われていますが、人類はそれよりもずっと前から出現していたので、こんな疑問が起きたのでしょう。このように考えると、火が果たしてきた役割はとても大きなものですが、現在の私達の日常生活では炎を見ることが非常に少なくなってきました。児童のこの疑問は大人が見過ごしている人間の在り方を見直させるヒントになるかもしれません。

Ｂ：電気が通ったのに、なぜテレビがなかったの？（西方小）

これらは1960年代に普及しました。1913年に旧越ヶ谷町や大沢町に電灯がついてから半世紀ほど経ってからです。

課の職員が自分が生まれた時にはすでに電気は通っていたが小さな子供の頃はまだテレビはなかったと話したことへの質問でした。この職員の体験は団塊の世代、またはそのすぐ後の世代くらいまでの人は実体験としてありますが、児童はもとよりその親御さんの世代でも生まれた時にはすでにカラーテレビも電気洗濯機もエアコンも、様々な家電製品が家庭には普及していたので、このような疑問が湧いたのです。

多種家電機器は一度に開発・発明されたのではなく、徐々に行われました。それだけでなく電気それ自体、普及には地域差がかなりありました。越谷市域での電気普及は早い地域と遅い地域とでは 10 年以上の時間差がありました。こういう時間差の中で営まれていた生活、学校での活動はどういう状況だったのでしょう。

Ｃ：寒い時にはどのように温まっていたのですか？（大間野小）

行火(あんか)

電気がなかったとすればファンヒーター、エアコン、電気こたつ、電気毛布等々はないので、寒い冬をどのように過ごしたのか疑問に思ったのでしょう。その時代は外国で発達したオンドルやペチカ、暖炉のように部屋全体を温めるような物はなく、部分的に暖をとる火鉢などでした。「電気はなくてもこたつはあったよ」と言うと、「えっ？！」という顔付。こたつの床で炭火を焚いたことを知って驚いた様子でした。

Ｄ：時間はどうやってみていたのですか？（大間野小）

近代になって太陽暦に改められてからはゼンマイ式の時計が徐々に家庭の中でも使われるようになりました。明治初期にまだ電気が通ってなかった学校では、授業の開始や終了を鐘（ベル）や呼子（笛）で知らせていました。

学校の鐘（増林小学校所蔵）

時刻は太陽や月の運行をもとに定められますが、明治以前は十二支などを用いて幅のある時刻表示でした。お昼の 12 時を『午の刻』と表したことを言うと、児童の中から「午前と午後！」という声があがりました。

E：洗濯はどうやってしていたのですか？（大間野小）

電気洗濯機がなかった時代、洗濯は手で行うよりほかありませんでした。たらいや洗濯板を使って行ったわけですが、時には足で踏んだり大きな石に打ちつけたりもしたようです。２つの中村家住宅には電気がなかった頃に水を汲んだ井戸があったのですが、今はありません。

古民家からの学び

中村家住宅についても様々な発見や疑問があったようです。

F：主屋の周りにたくさん木があるのは、なぜですか？（大間野小）

大間野町旧中村家住宅の前庭に集合した時に感じたのでしょう。新しい住宅地では高くて大きな樹木が家の周囲にあることがあまりありません。特に北西側にそれが多い理由は季節に関係していることを伝えると、児童たちは冬のカラッ風に気づいたようでした。

G：板戸のいくつもの穴は何ですか？（西方小）

節穴のことです。建物の案内では特には触れなかった部分でしたが、何人もの児童が不思議そうに見ていました。人が開けた穴と思ったようです。『あ、こういうものも現代住宅では見られないんだ』と、私共も認識を新たにさせられました。

ある朝、開館準備をしていた旧東方村中村家住宅の職員が面白い現象を発見しました。右の写真です。晴天で空気が乾燥していたその日、外の建物（管理棟）が障子に逆さまに映っていたのです。ピンホールカメラの理屈で節穴を通して映されていたのです。思いがけない節穴のプレゼントでした。

H：中村家住宅にはなぜベランダがないのですか？（長栄小）

一見すると２階建てのようにも見える中村家住宅。２階から屋外に張り出していることが多いベランダがここにはないことに気づいた児童の質問でした。伝統的日本家屋には現代のようなベランダではありませんが、縁側などはベランダの要素が含まれているようです。

I：屋根の上の方が波のようになっているのはなぜですか？（長栄小）

主屋（おもや）の棟（むね）の青海波（せいかいは）
（大間野町旧中村家住

式台付玄関屋根の懸魚（げぎょ）（大間野町旧中村家住宅）

まさに波を表していて、「青海波」といいます。屋根には他にも雲やヘビなど水に縁のある意匠が用いられています。家が発展することや火災に遭わないことを祈念したものでしょう。

今号で取り上げたこれらの質問は、体験・見学中には直接解説しなかったことです。一通り学習が終わって前庭に集合した時に出された質問でした。このような疑問が発せられると、我々課員はハラハラドキドキしながらも、とても嬉しい気持ちになります。それは児童たちがよく聴き、よく観察していた証です。しかも“昔”の暮らしの根源的な部分に関わるものです。こういうことを共有し合える時間と内容は、むしろ大人にこそ必要なのかもしれません。

旧東方村中村家住宅で開催の**「市内小学校開校 150 周年記念展示　越谷から見た近代教育」『第一部　近代教育の誕生』**には多くの方々がお出でいただいており、大変感謝しています。この様子は次号でご報告させていただきます。